

一言メモ

(一社)水戸観光コンベンション協会より



吉田神社 創建は顕宗天皇(485年)～仁賢天皇(498年)の時代と言われており、全国の日本武尊を祭神として祀る神社では最も歴史が古く、鎌倉時代には「常陸第三宮」として多くの信仰を集めました。境内には、日本武尊が東征の帰途、かつてこの台地の下は海の入江で、そこに上陸し休まれたと伝えられる日本武尊御着船の碑があります。



江戸街道起点の碑 水戸から江戸まで29里19町(約116km)続く江戸街道の起点。江戸街道は水戸からの呼び名であり、当時はここから振り返れば高台に立つ水戸城がよく見えたそうです。江戸街道には大小20ほどの宿駅が置かれ、最初の宿駅は茨城町長岡。水戸藩士が上京する際は、土浦と小金(松戸市)の宿駅に泊まるよう決められていたようです。



水戸城跡 水戸城跡は、12世紀末から13世紀初頭に馬場大掾氏が城跡を備えて以来、江戸氏、佐竹氏、徳川氏と城主が変わる毎に拡張が繰り返された中～近世の城館跡です。本丸・二の丸・三の丸の土塁と堀切は壮大で、土造りの平山城としては国内最大級の規模を有します。



水戸藩校弘道館 1841年に水戸藩第9代藩主・徳川斉昭公の手によって創設した藩校。それが、近世日本の教育遺産群として日本遺産にも登録された弘道館です。「教育によって人心を安定させ、教育を基盤として国を興す」という建学の精神の下、弘道館は儒学教育を礎に文武を磨く教育機関として機能しました。



水戸芸術館現代美術センター 1990年3月22日に開館した美術館・コンサートホール・劇場からなる現代芸術の複合文化施設。設計は建築家の磯崎新。運営は公益財団法人水戸市芸術振興財団。初代館長は音楽評論家の吉田秀和。吉田の後任として2013年4月1日に同館専属の水戸室内管弦楽団の音楽顧問である指揮者の小澤征爾が2代目館長に就任した。



水戸八幡宮 応神天皇・神功皇后・姫大神の三柱を祀る。古来より、農・工・商の神、厄除・子育ての守護神として崇敬を集めてきました。創建当時の姿を残す本殿は国の重要文化財に指定されており、安土桃山の輝きを今に伝えます。境内にそびえる樹齢約700年と言われる御葉付公孫樹は、葉の先に実を結ぶ珍しい樹種であり、国指定天然記念物。



保和苑 徳川光圀公(水戸黄門)が寺の庭を愛されて「保和園」と名付けられたことが始まりと言われています。昭和初期には地元有志により、拡張整備されて純日本庭園になり、名前も「保和苑」となりました。初夏になると、1.5haの敷地に、約100種6,000株のあじさいが咲き競い「水戸のあじさいまつり」が盛大に開催されます。



常磐神社 水戸藩を代表する第2代藩主徳川光圀公(義公)・第9代藩主徳川斉昭公(裂公)を祀る神社で、明治時代初めに義公・裂公の徳を慕う人々によって偕楽園内に創立された祠堂に由来する。境内には戦災を免れた能楽殿等が残るほか、水戸学関係の資料や日本一の大きさがある陣太鼓等を展示した義烈館があります。